

地域福祉コーディネーター養成と 住民活動支援プログラムの開発

現状と課題

- 近年、地域福祉の施策では、地域ケアをより効果的なものとするために、住民による見守りや支え合いなどの住民活動の推進が重視されてきています。
- そうした中で、住民の活動や福祉サービスをつなげ、地域のケアシステムをより有効に機能させる役割を果たす「コーディネーター」の存在が重要になっています。
- 東京都内の区市町村社協では、小地域福祉活動の推進などを図っていくべく、地域福祉コーディネーターを配置する社協もみられるようになってきました。さらには、区市町村社協に配置されるコーディネーターに限らず、住民活動の中にも住民の主体的な活動を支えるコミュニティリーダーが育ってきています。
- こうしたことから、地域福祉を推進するコーディネーターの役割を明確化するとともに、その人材を育成するためのプログラム開発を行なうことが必要となっています。

事業のねらい

地域福祉の推進における「コーディネーター」の役割を明確化し、その育成を図ることを通じて、区市町村社協等における住民活動支援の活性化を図ります。

- (1) 区市町村社協による住民活動支援の必要性を明らかにし、その確立をめざします。
- (2) 地域ケアシステムへの住民参加により福祉サービスの効果的な提供をめざします。

実施すべき具体的な事業

◆「地域福祉コーディネートのあり方検討委員会」の設置

地域福祉コーディネーターの役割や育成のあり方、住民活動支援プログラムの開発などについて、モデル地区の区市町村社協と協働しながら確立を図ります。

(1) 『地域福祉コーディネート活動事例集』（仮称）の作成

区市町村社協の地域福祉コーディネーター、住民によるコミュニティリーダーの活動事例を収集し、住民活動の支援プロセスの明確化を行ないます。

- ① 地域福祉活動におけるコーディネート活動事例の収集と支援プロセスの分析
- ② 活動事例集の作成

(2) 区市町村社協における地域福祉コーディネーターの育成

地域福祉コーディネーターの役割を明確にし、その研修プログラムを開発します。

- ① 地域福祉コーディネーター研修プログラムの開発、実施
- ② 地域福祉コーディネーターへのスーパーバイズ事業の実施（モデル地区を設定）

(3) 地域における住民活動の活性化支援

モデル地区を設定し、住民向けに福祉課題の理解促進や主体的な問題解決力向上のため、コミュニティリーダーを対象とした支援プログラムを開発します。なお、これまで区市町村社協が十分に取組んでいない子育て支援に関する支援プログラム（サロン活動、体験講座など）の開発にも積極的に取り組めます。

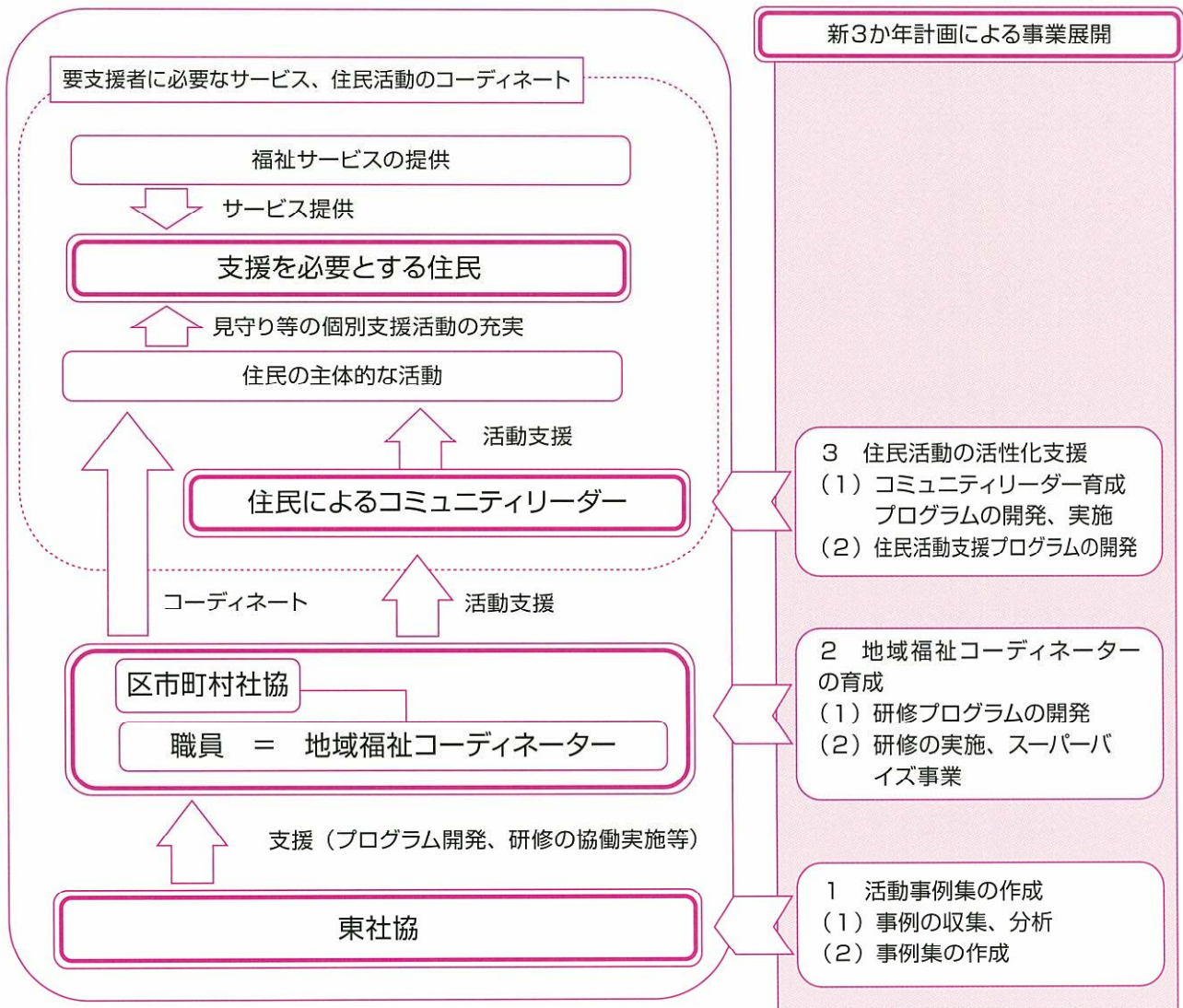
- ① コミュニティリーダー育成プログラムの開発、実施（モデル地区を設定）
- ② 住民活動支援プログラムの開発（モデル地区を設定）

年次計画

22年度	23年度	24年度
○「地域福祉コーディネートのあり方検討委員会」の設置（22～24年度）		
<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉コーディネート活動事例集の作成 ・地域福祉コーディネーター研修プログラム開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民活動支援プログラムの開発 ・地域福祉コーディネーター研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉コーディネータースーパーバイズ事業

事業の概況

図●地域福祉コーディネーター養成と住民活動支援プログラム開発



I 社会的に広く取り組む課題への対応

II 福祉人材の定着・育成の取組み

III 地域における諸課題への対応

IV 都民の福祉参加と理解の促進

V 部会及び連絡会の充実と強化